

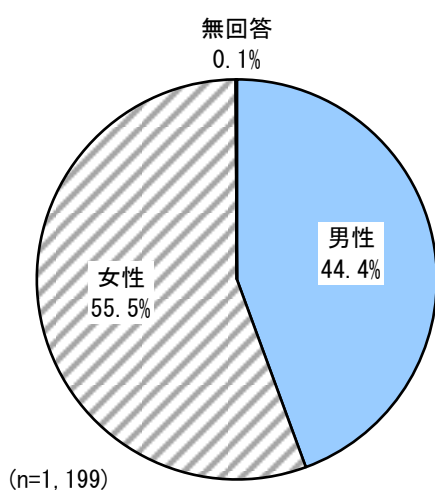
藤井寺市 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 <集計結果の概要>

<調査概要>

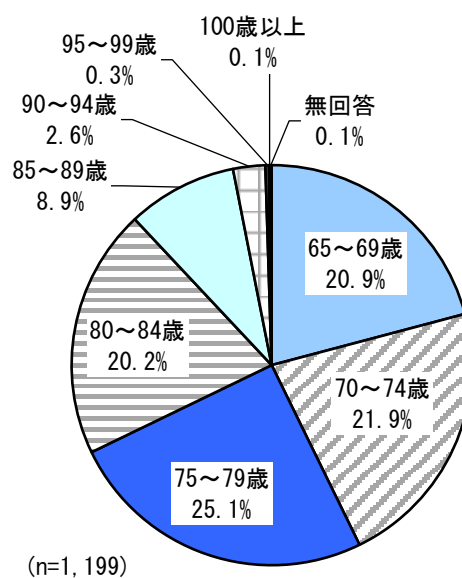
調査対象	市内在住、要介護認定を受けていない65歳以上の方 2,000人（無作為抽出）
調査方法	郵送による配布－郵送・WEB回収
調査期間	令和7年12月17日～令和8年1月16日
回収状況	有効回答数 1,199件（回収率 60.0%） ※前回調査（令和4年）59.6%
（内訳）	紙調査票 1,078件（回収率 53.9%）、WEB回答 121件（回収率 6.1%）

◆調査対象者属性

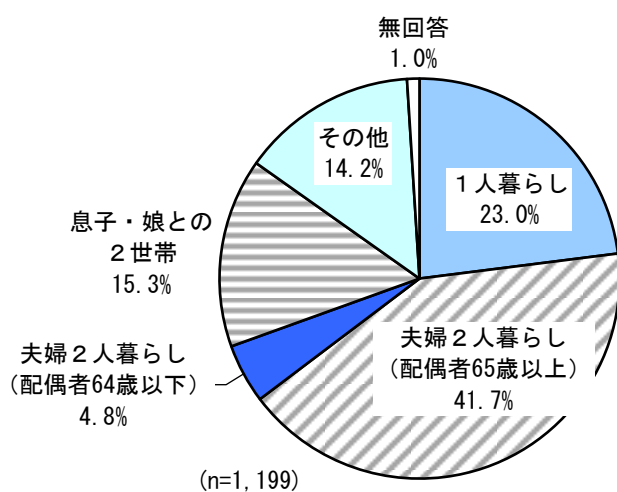
【性別】



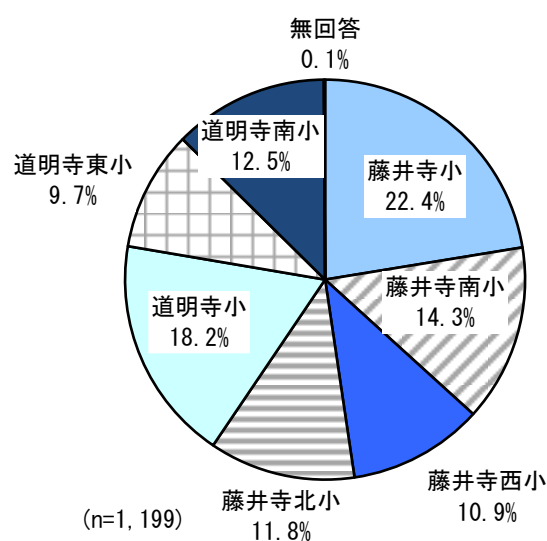
【年齢】



【家族構成】

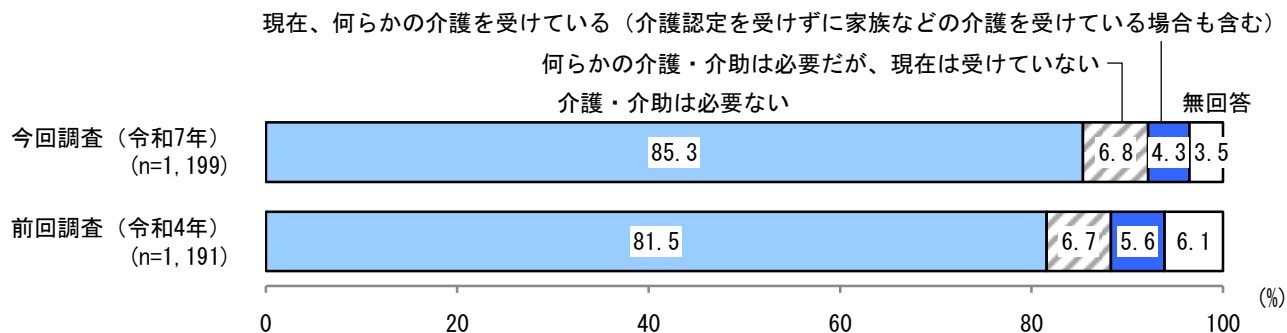


【居住地域】



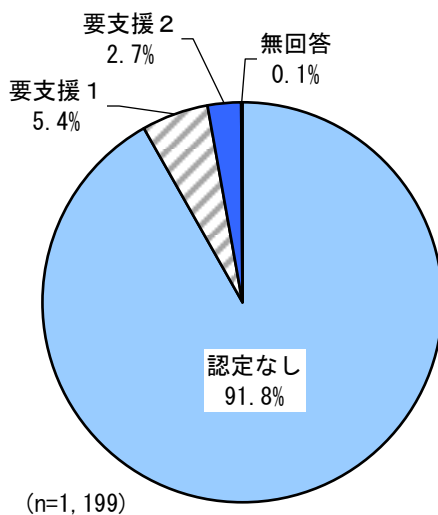
【介護・介助の必要性】

「何らかの介護・介助が必要」と回答した人は、合計11.1%。



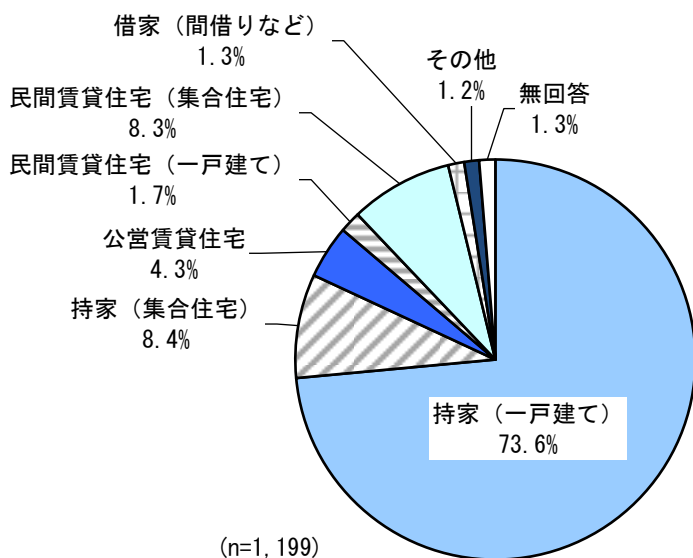
【要支援認定の有無】

要支援認定を受けている人は8.1%。



【住居形態】

「持家」が82.0%（うち、「持家（一戸建て）」が73.6%、「持家（集合住宅）」が8.4%）。

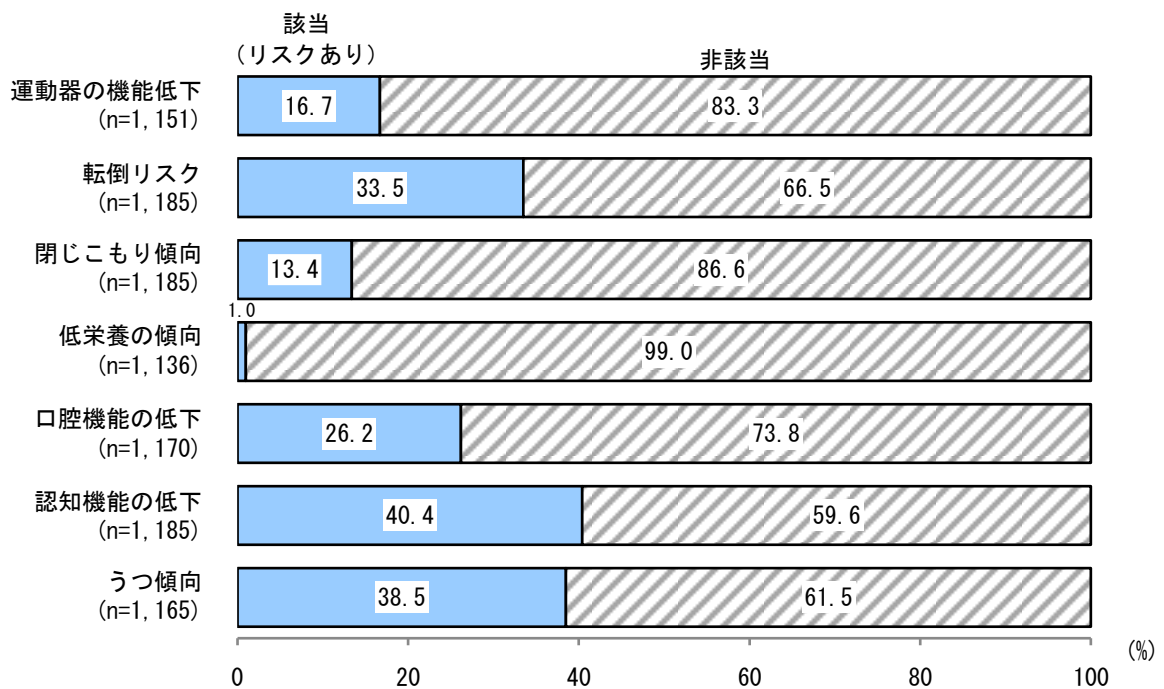


◆生活機能評価から／非認定高齢者のリスクの状況

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を「リスクあり」と判定。

項目	設問	該当する選択肢
①運動器の機能低下 ※5項目中、3項目以上 該当でリスクあり	問5 階段を手すりや壁をつたわずに昇れるか	「3. できない」
	問6 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれるか	「3. できない」
	問7 15分位続けて歩いているか	「3. できない」
	問8 過去1年間に転んだ経験があるか	「1. 何度もある」「2. 1度ある」
	問9 転倒に対する不安は大きいか	「1. とても不安である」「2. やや不安である」
②転倒リスク ※該当でリスクあり	問8 過去1年間に転んだ経験があるか	「1. 何度もある」「2. 1度ある」
③閉じこもり傾向 ※該当でリスクあり	問10 週に何回外出しているか	「1. ほとんど外出しない」「2. 週1回」
④低栄養の傾向 ※2項目とも該当でリスクあり	問14 BMI	18.5未満
	問22 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか	「1. はい」
⑤口腔機能の低下 ※3項目中、2項目以上 該当でリスクあり	問15 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか	「1. はい」
	問16 お茶や汁物等でむせることがあるか	「1. はい」
	問17 口の渇きが気になるか	「1. はい」
⑥認知機能の低下 ※該当でリスクあり	問24 物忘れが多いと感じるか	「1. はい」
⑦うつ傾向 ※2項目中、いずれかに 該当でリスクあり	問60 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか	「1. はい」
	問61 どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったか	「1. はい」

認知機能の低下、うつ傾向においてリスク該当者が4割前後。

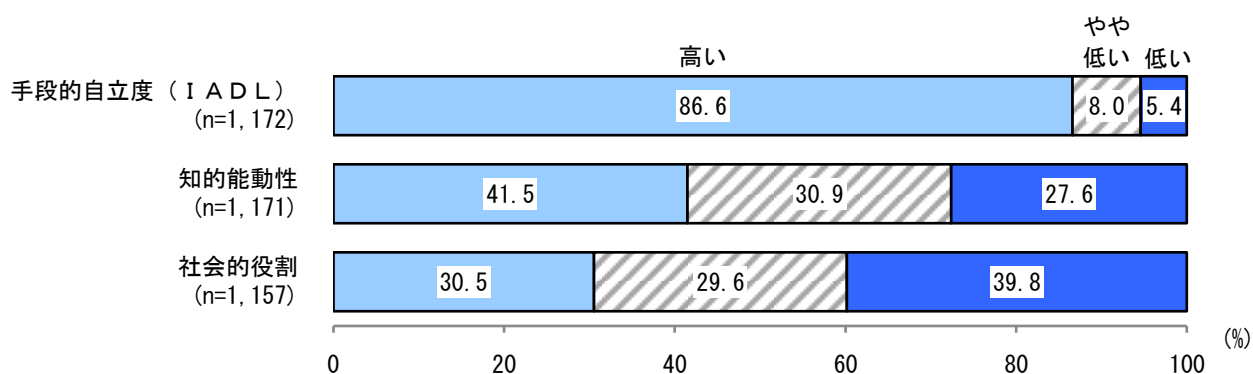


◆生活機能評価から／老研式活動能力指標

老研式活動能力指標に準じた設問に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：IADL）、余暇や創作など生活を楽しむ能力（知的能動性）、地域で社会的な役割を果たす能力（社会的役割）が低下している人の状況を把握。

項目	設問	該当する選択肢
①手段的自立度（IADL）	問27 バスや電車を使って1人で外出しているか	5項目について、それぞれ「1.できるし、している」または「2.できるけどしていない」に該当で1点とし、計5点満点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価
	問28 自分で食品・日用品の買物をしているか	
	問29 自分で食事の用意をしているか	
	問30 自分で請求書の支払いをしているか	
	問31 自分で預貯金の出し入れをしているか	
②知的能動性	問32 年金などの書類が書けるか	4項目について、「1.はい」を1点とし、計4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価
	問33 新聞を読んでいるか	
	問34 本や雑誌を読んでいるか	
	問35 健康についての記事や番組に関心があるか	
③社会的役割	問36 友人の家をたずねているか	
	問37 家族や友人の相談にのっているか	
	問38 病人を見舞うことができるか	
	問39 若い人に自分から話しかけることがあるか	

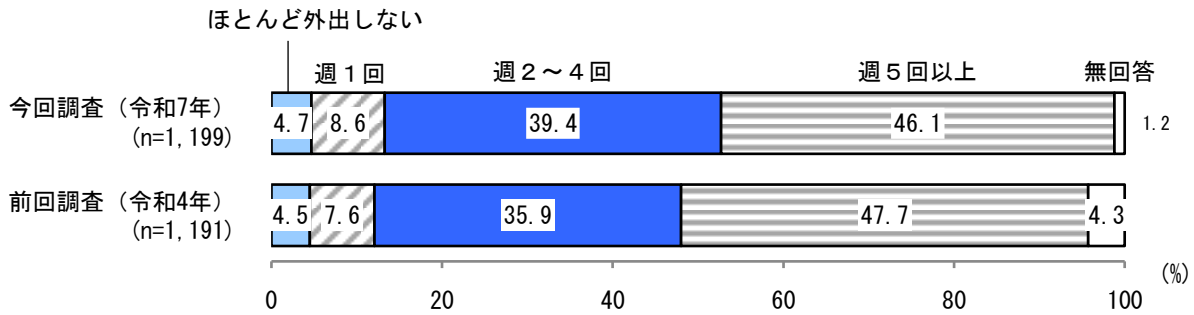
それぞれの能力が「高い」と判断された人は手段的自立度（IADL）で86.6%、知的能動性で41.5%、社会的役割では30.5%。



◆外出について

【外出の頻度】

「週5回以上」が46.1%、「週2～4回」が39.4%で、「週1回」以下は合計13.3%。

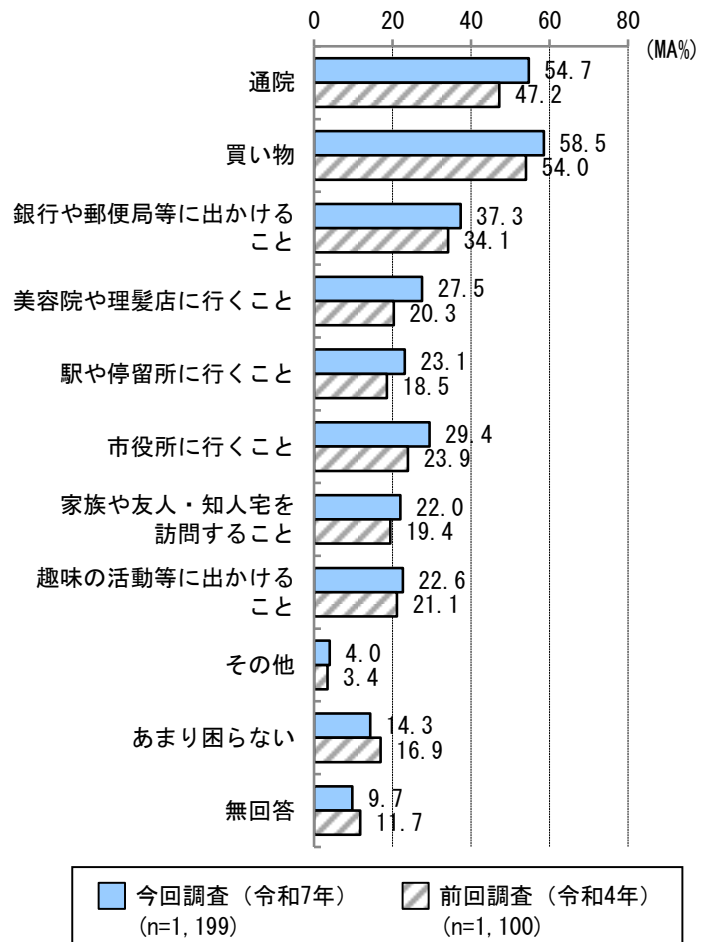
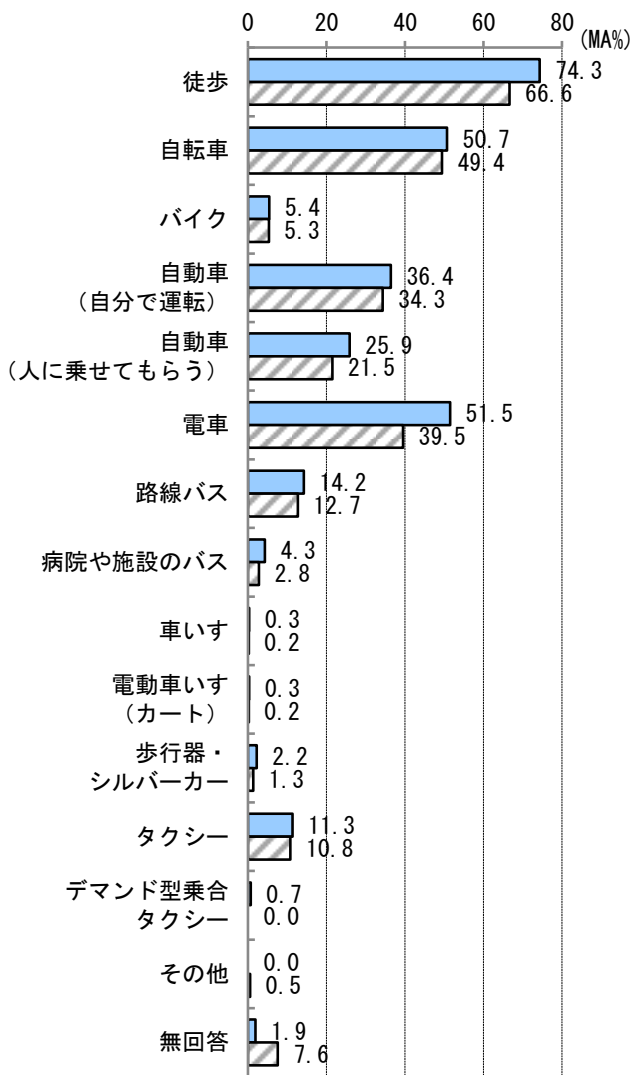


【外出する際の移動手段】

移動手段は、「徒歩」74.3%、「電車」が51.5%、「自転車」が50.7%。

【移動手段がないと困ること】

移動手段が利用できないと困ることは、「買い物」58.5%、「通院」54.7%、「通院」54.7%。



■ 今回調査 (令和7年) (n=1,199) ■ 前回調査 (令和4年) (n=1,191)

◆耳の聞こえ

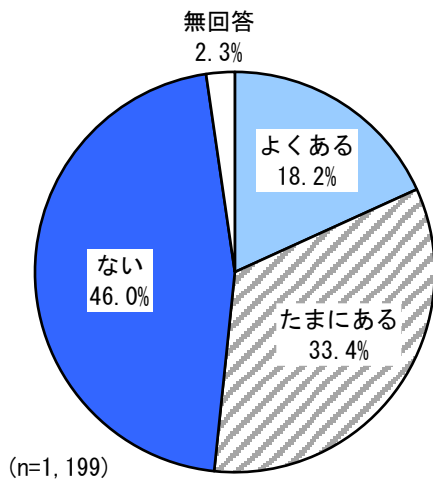
耳が聞こえにくいことがある人は51.6%（「よくある」が18.2%、「たまにある」が33.4%）。

耳の症状で困っていることは、「聞こえが悪い」が65.1%、「左右で聞こえ方が違う」が19.7%。

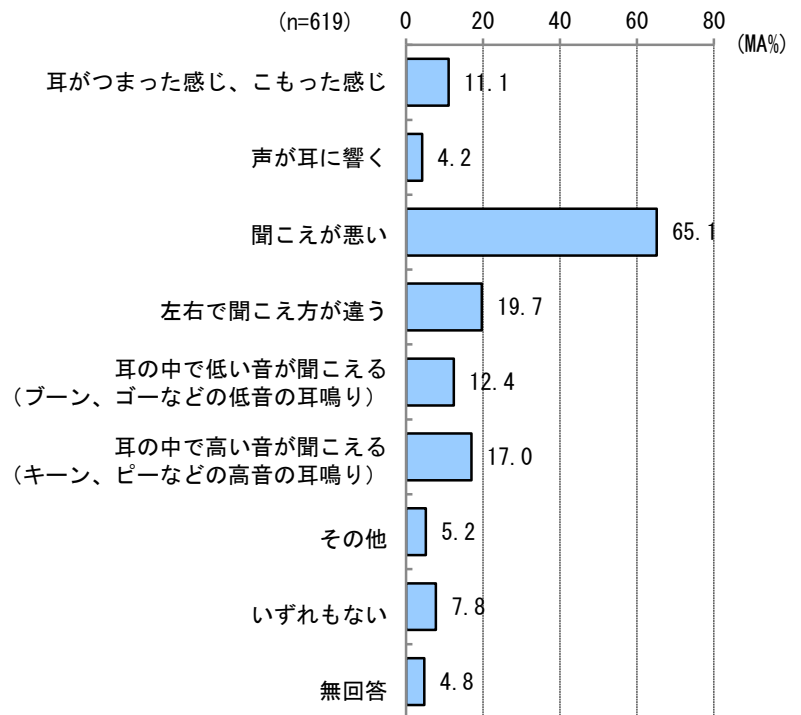
日常生活においては、「ボソボソ話す人の声がわからない」が66.6%、「騒がしい場所での会話が聞き取りづらい」が58.8%。

補聴器を使用している人は10.3%。

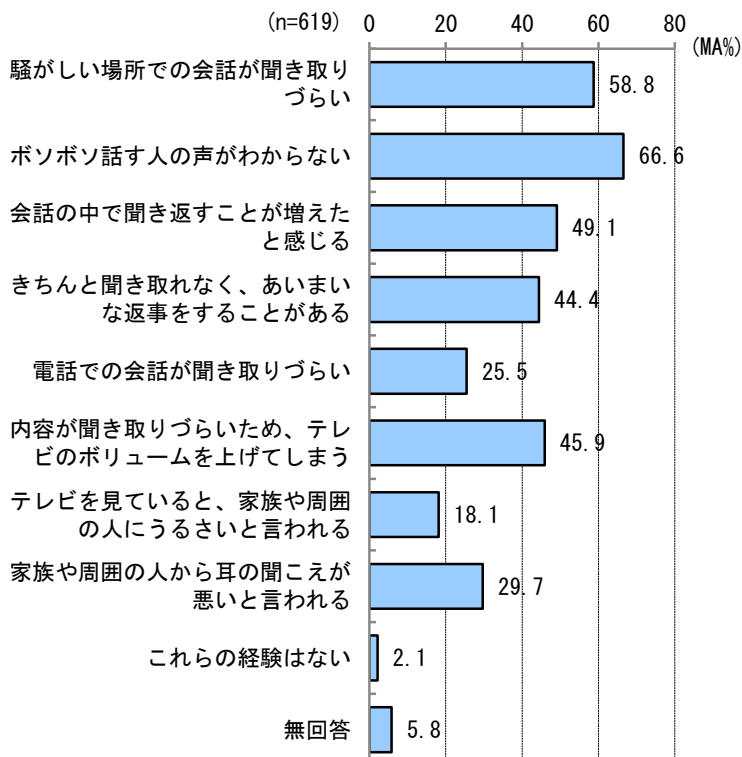
【耳が聞こえにくいこと】



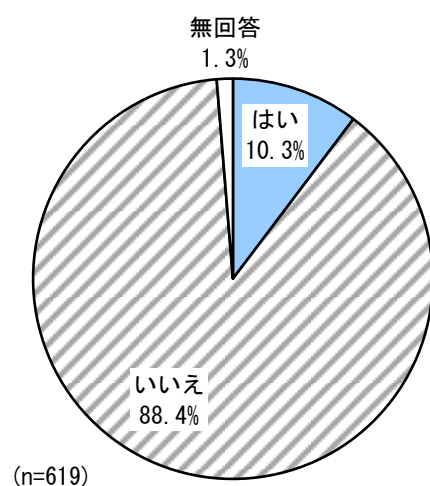
【耳の症状で困っていること】



【耳の聞こえに関する日常生活での経験】

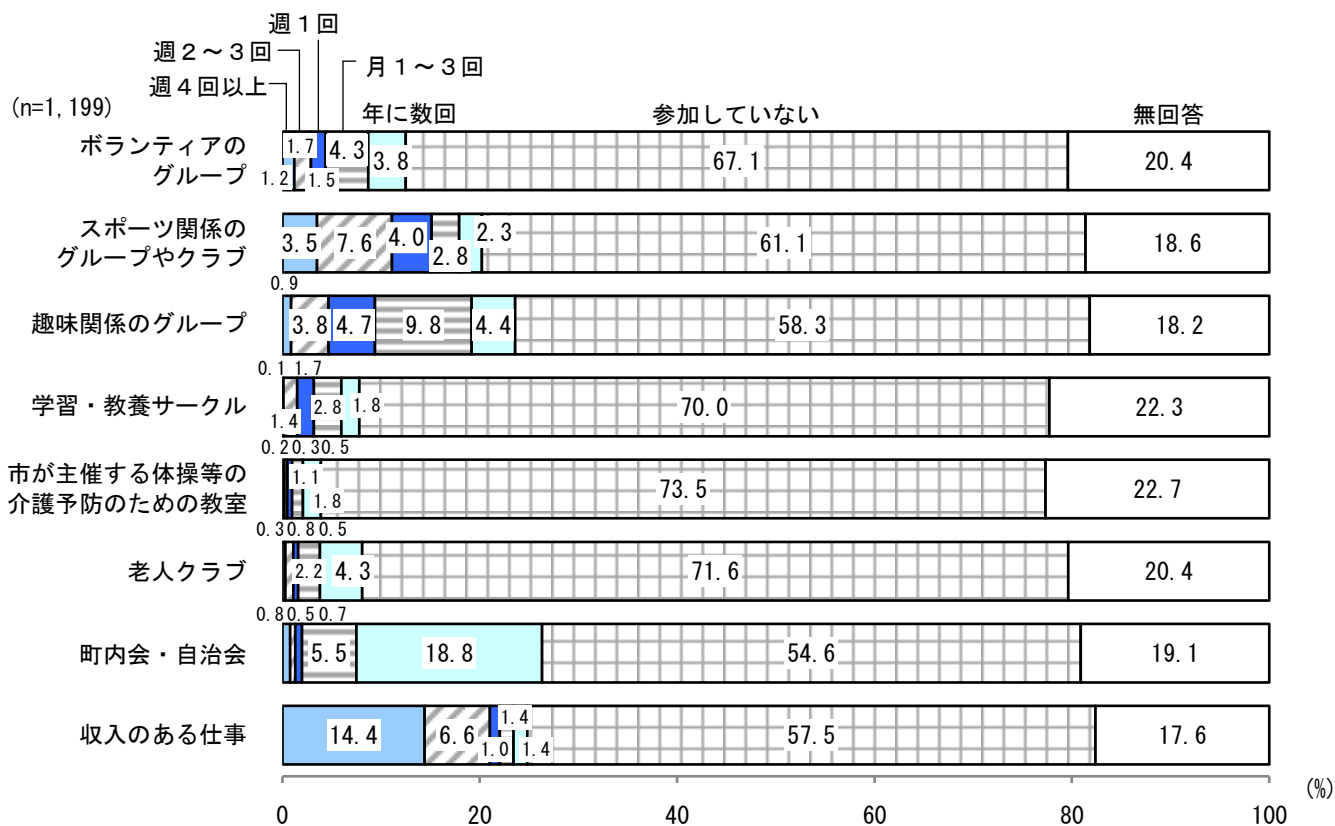


【補聴器の使用状況】



◆地域の会・グループ等への参加状況

月1回以上の参加がみられるのは、「収入のある仕事」で23.4%、「趣味関係のグループ」で19.2%、「スポーツ関係のグループやクラブ」で17.9%。「町内会・自治会」では「年に数回」の参加が多い。



【年齢別「参加していない」割合】

地域の会・グループに「参加していない」と回答した人を年齢別にみると、65~74歳は「老人クラブ」、75~84歳は「市が主催する体操等の介護予防のための教室」、85歳以上では「収入のある仕事」が最も多い。

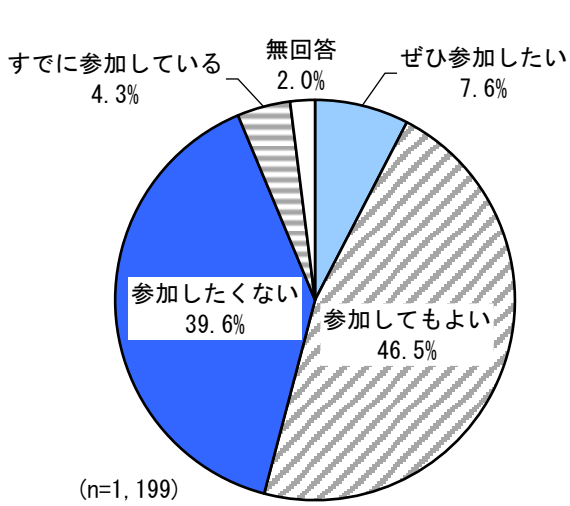
(上段：件、下段：%)

	調査数	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	市が主催する体操等の介護予防のための教室	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事
全体	1199	805	733	699	839	881	859	655	690
	100.0	67.1	61.1	58.3	70.0	73.5	71.6	54.6	57.5
65~74歳	512	371	329	324	399	428	431	306	265
	100.0	72.5	64.3	63.3	77.9	83.6	84.2	59.8	51.8
75~84歳	543	350	321	296	352	363	343	276	334
	100.0	64.5	59.1	54.5	64.8	66.9	63.2	50.8	61.5
85歳以上	143	83	82	78	87	89	84	72	90
	100.0	58.0	57.3	54.5	60.8	62.2	58.7	50.3	62.9

◆地域づくりの活動への参加意向

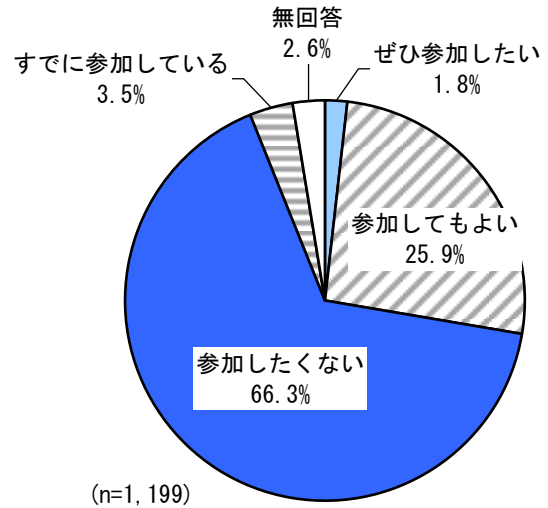
【参加者として】

参加者としては、「参加してもよい」が46.5%、「参加したくない」が39.6%。



【企画・運営（お世話役）として】

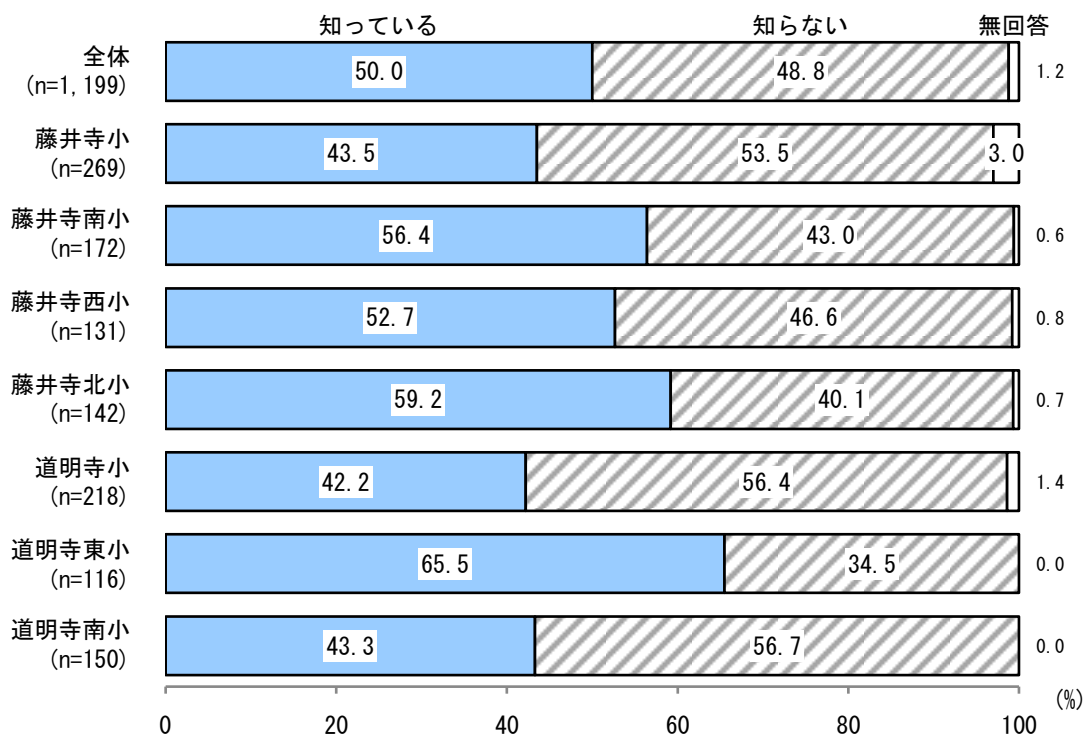
お世話役としては、「参加したくない」が66.3%と多い。



◆地区会館での活動について

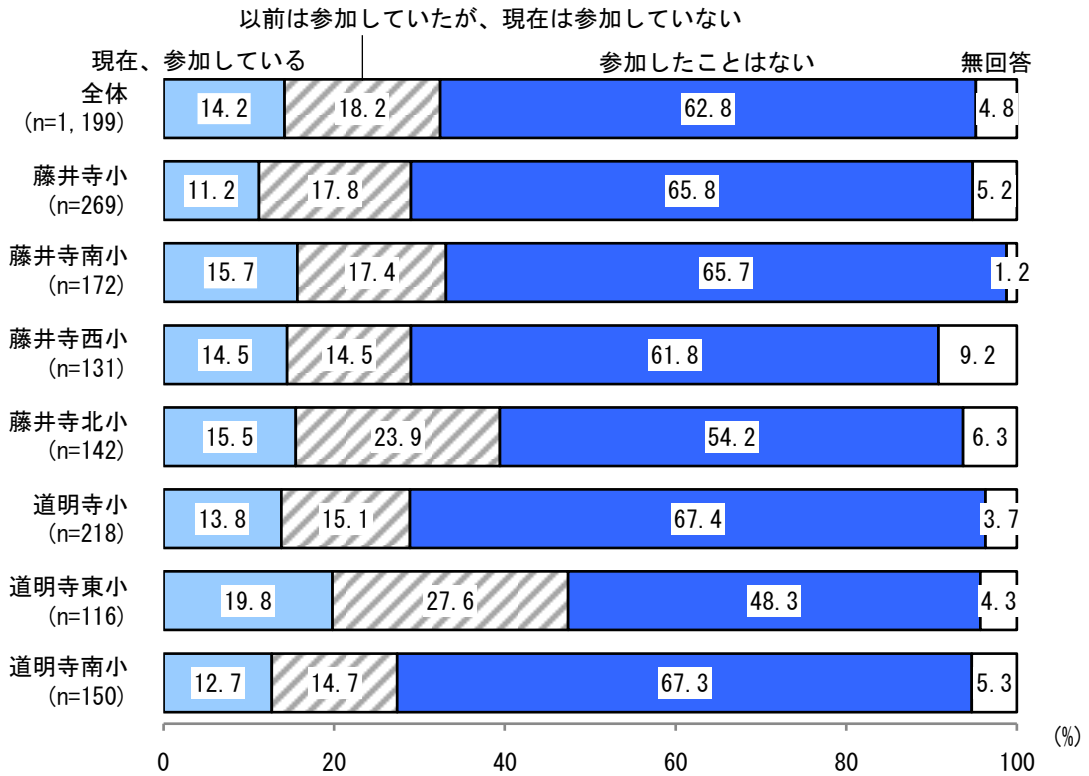
【活動内容の認知】

地区会館でどのような活動が行われているかを「知っている」人は50.0%。



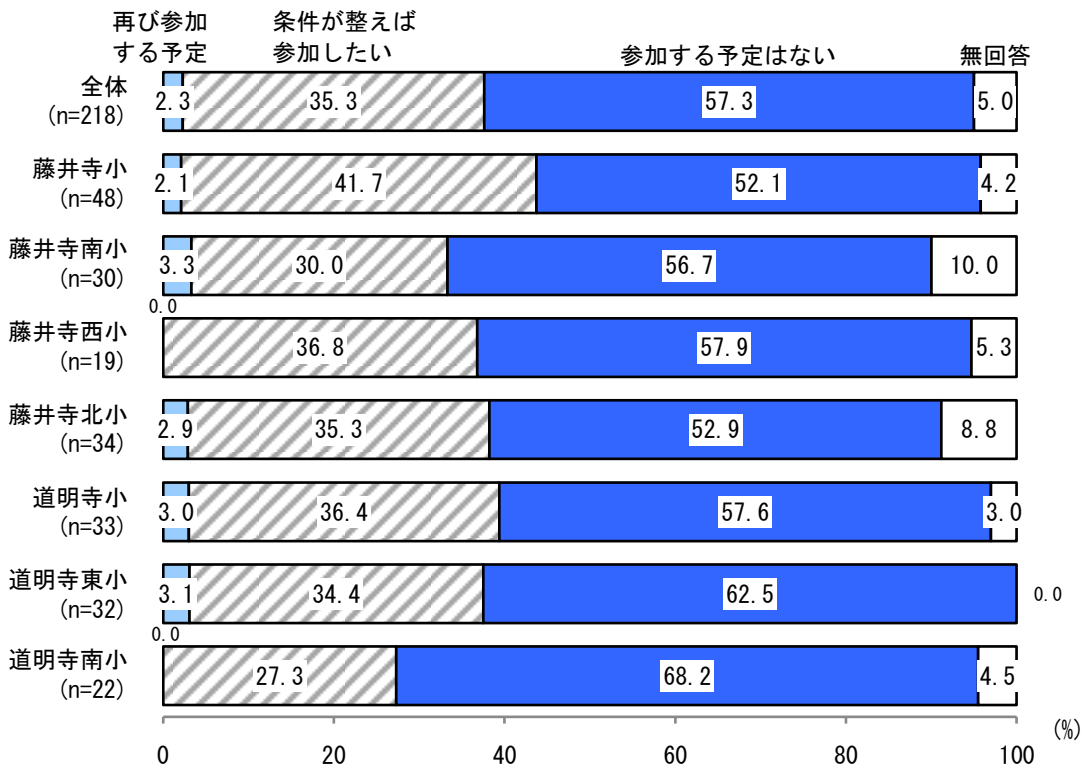
【活動への参加状況】

地区会館での活動に「現在、参加している」は14.2%。「参加したことはない」が62.8%。



【今後の参加意向】

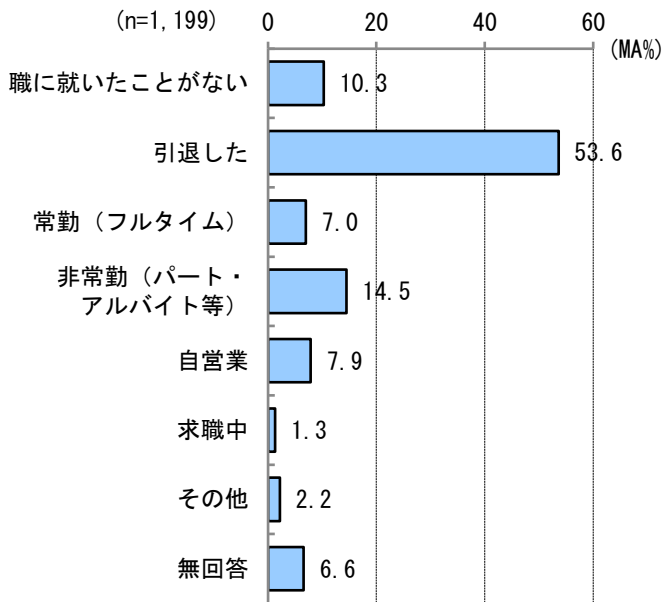
「以前は参加していたが、現在は参加していない」人で、今後、参加したい気持ちのある人は合計37.6%。



◆就労

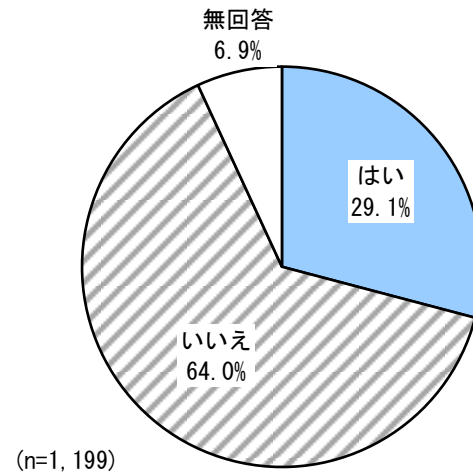
【現在の就労状態】

「引退した」が53.6%で最も多く、働いている人では「非常勤（パート・アルバイト等）」が14.5%、「自営業」が7.9%、「常勤（フルタイム）」が7.0%。



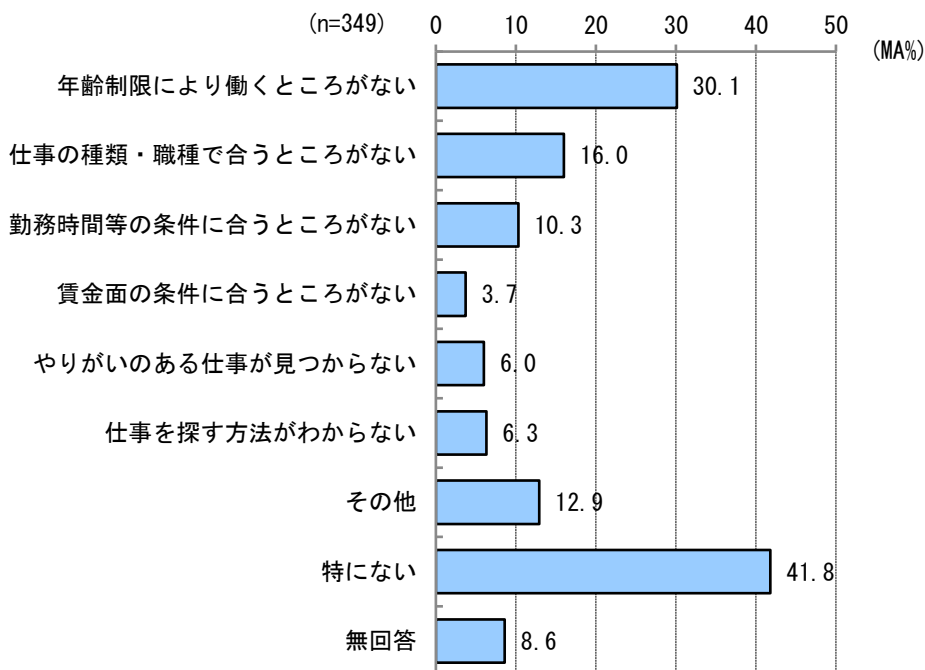
【今後の就労意向】

今後も働きたい人は29.1%。



【働き続けるために困難なこと】

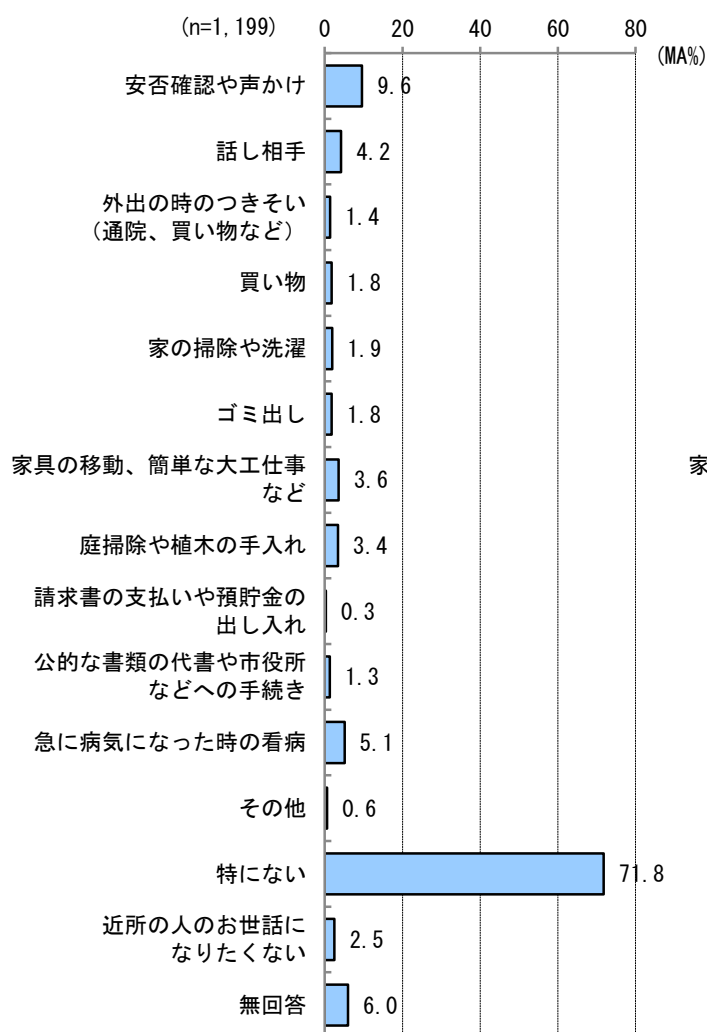
今後も働き続けるために困難なことは、「特にない」が41.8%、「年齢制限により働くところがない」が30.1%。



◆近所との手助け・支援

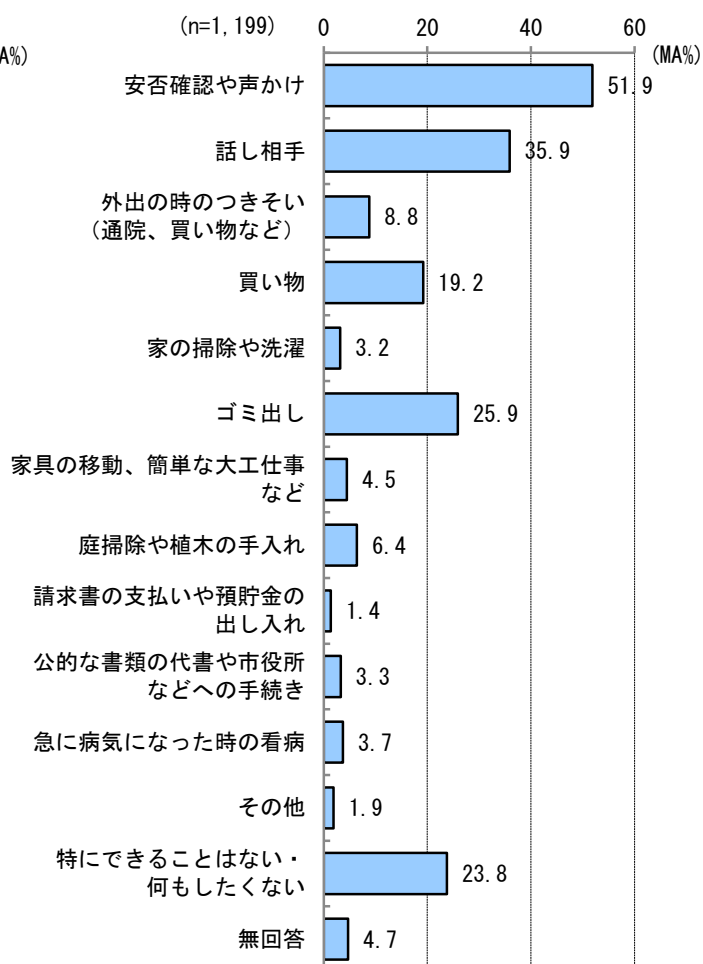
【近所の人やボランティアに手助けしてもらいたいこと】

「特にない」が71.8%。手助けしてもらいたい人では、「安否確認や声かけ」が9.6%で最も多く、次いで「急に病気になった時の看病」が5.1%。



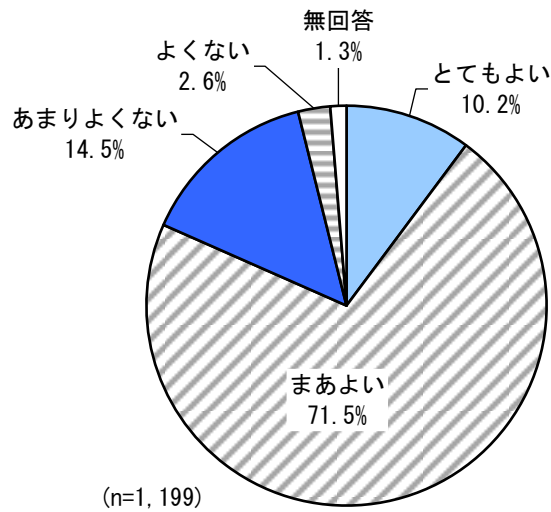
【近所の人困っている時に支援できること】

「特にできることはない・何もしたくない」が23.8%。支援できることがある人では、「安否確認や声かけ」が51.9%で最も多く、次いで「話し相手」が35.9%、「話し相手」が35.9%、「ゴミ出し」が25.9%、「買い物」が19.2%。



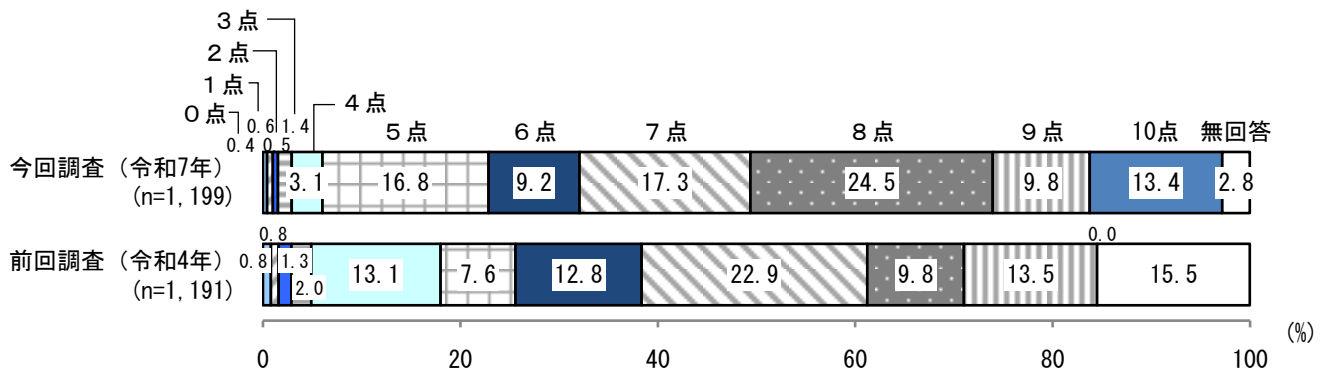
◆健康観

現在の健康状態がよい人は81.7%（「とてもよい」が10.2%、「まあよい」が71.5%）。



◆現在の幸福度

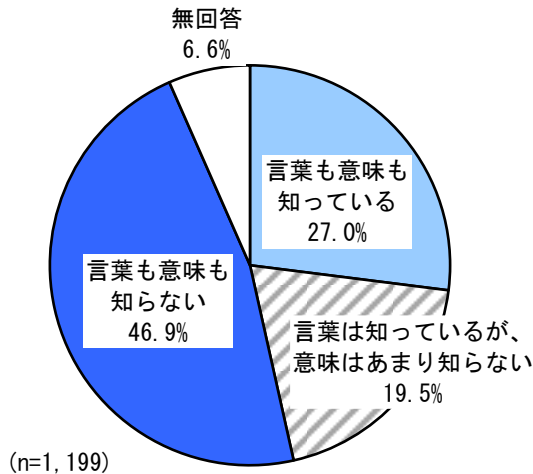
現在の幸福度を10点満点で評価してもらったところ、「8点」が24.5%と最も多く、次いで、「7点」が17.3%、「5点」が16.8%。平均は7.2点と、前回調査の6.4点に比べて0.8点上がっている。



◆認知症について

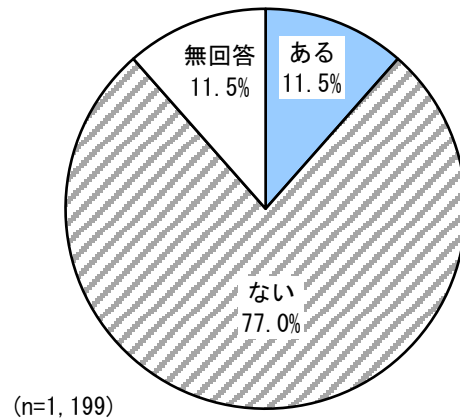
【フレイルという言葉や意味の認知度】

「言葉も意味も知らない」が46.9%で最も多く、次いで「言葉も意味も知っている」が27.0%、「言葉は知っているが、意味はあまり知らない」が19.5%。



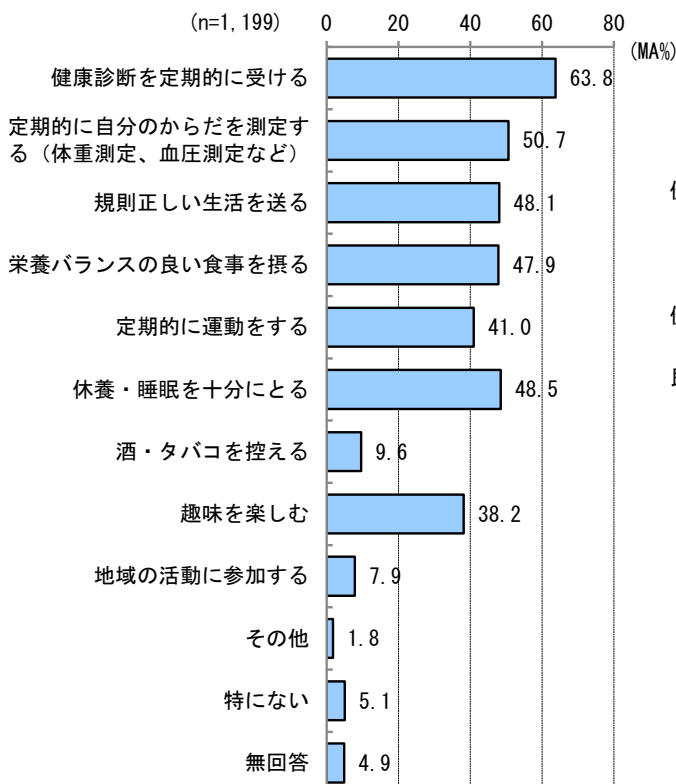
【フレイルだと感じること】

自分がフレイルだと感じるものが「ある」が11.5%、「ない」が77.0%。



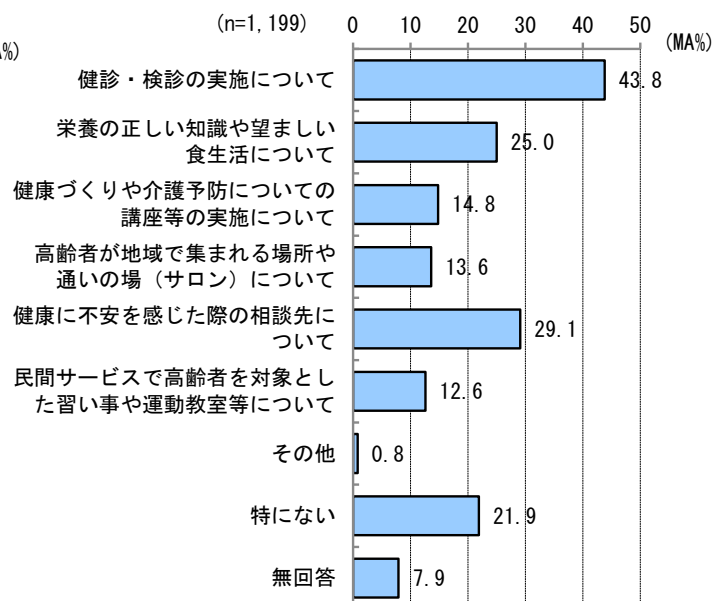
【健康の維持や向上のための取組】

「健康診断を定期的に受ける」が63.8%で最も多く、次いで「定期的に自分のからだを測定する（体重測定、血圧測定など）」が50.7%、「休養・睡眠を十分にとる」が48.5%、「規則正しい生活を送る」が48.1%。



【健康の維持や向上のために希望する情報】

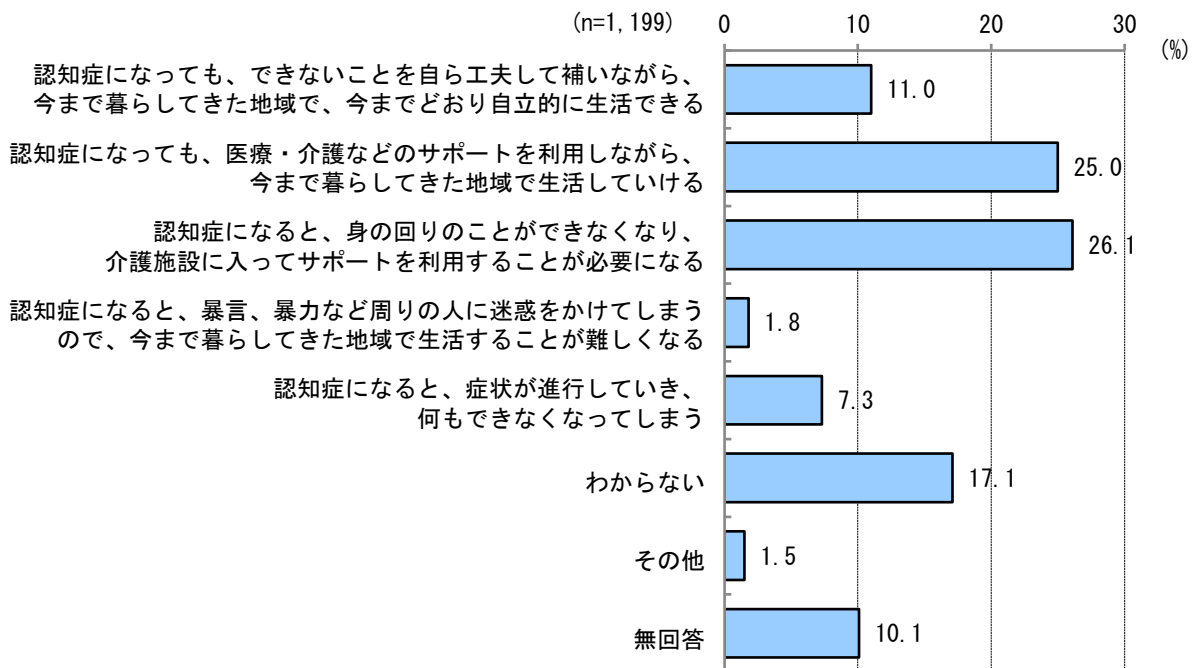
「健診・検診の実施について」が43.8%で最も多く、次いで「健康に不安を感じた際の相談先について」が29.1%、「栄養の正しい知識や望ましい食生活について」が25.0%。



◆認知症について

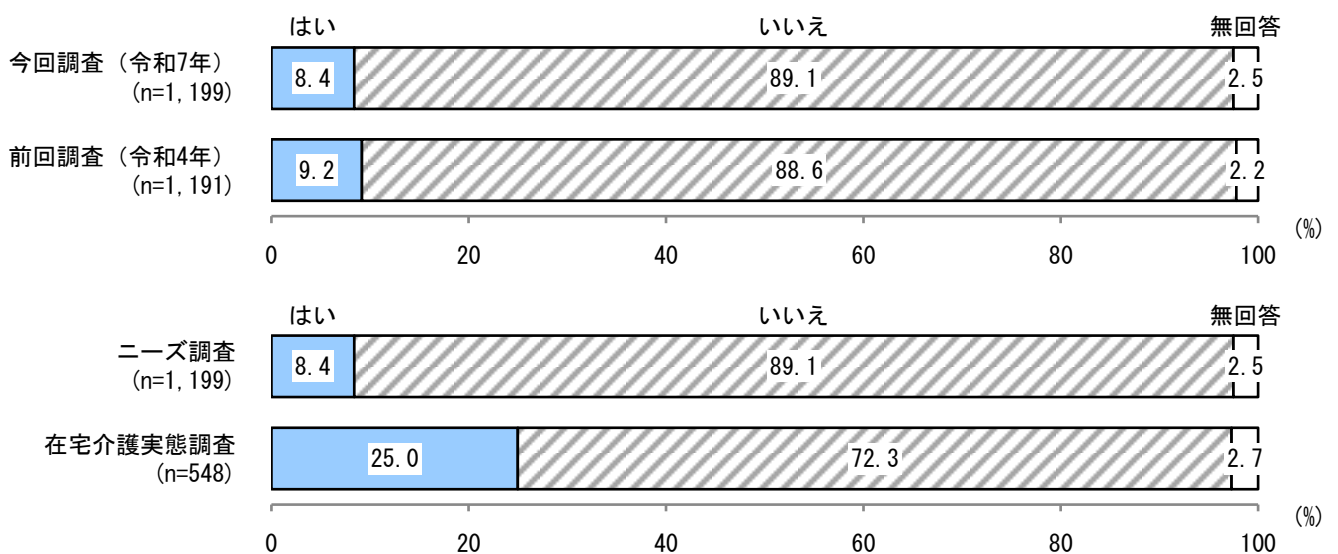
【認知症に対するイメージ】

「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」が26.1%で最も多く、次いで「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」(25.0%)が多い。



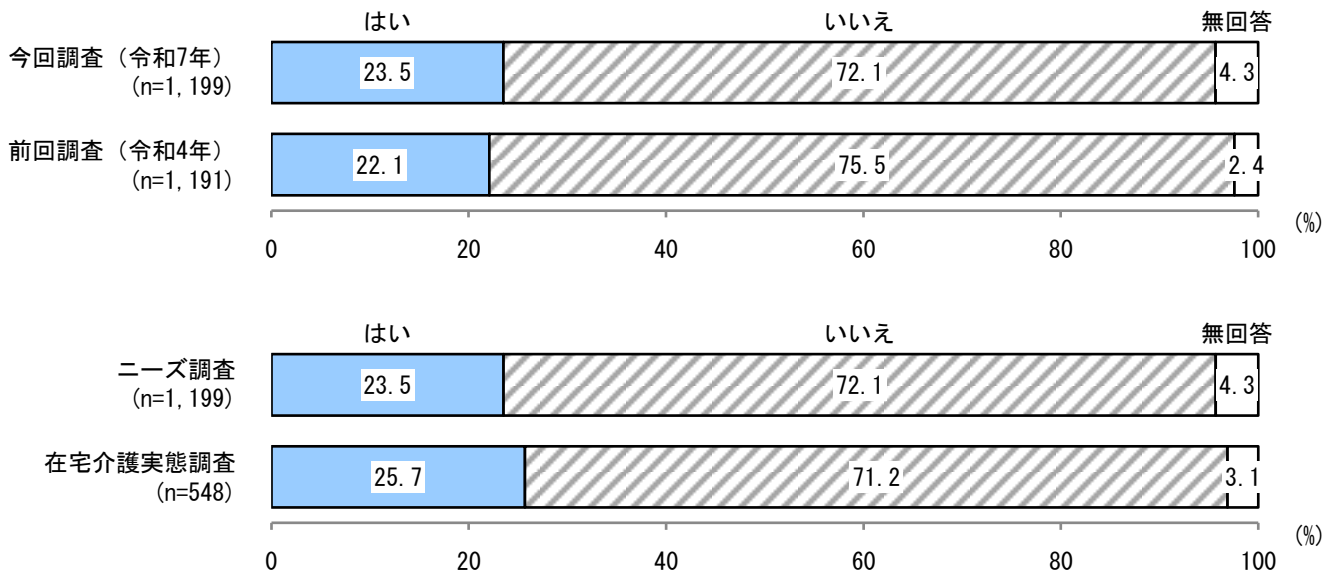
【認知症の有無】

自身や家族に認知症の症状がある人がいる（はい）は8.4%。



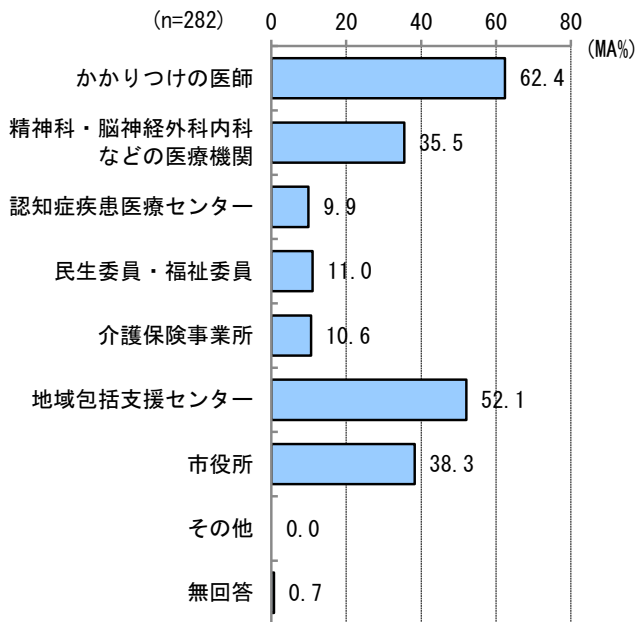
【認知症相談窓口の認知状況】

認知症相談窓口を知っている人は23.5%。



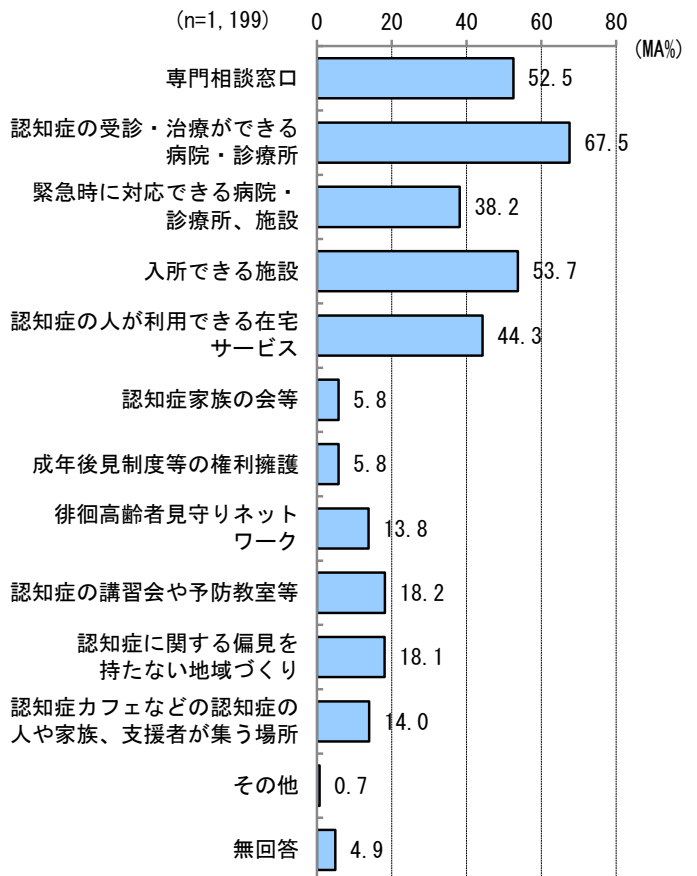
【認知症に関する相談窓口で知っているところ】

「かかりつけの医師」が62.4%で最も多く、次いで「地域包括支援センター」が52.1%、「市役所」が38.3%。



【認知症になっても安心して暮らせるために充実してほしいこと】

「認知症の受診・治療ができる病院・診療所」が67.5%で最も多く、次いで「入所できる施設」が53.7%、「専門相談窓口」が52.5%。



◆今後の住まいの意向

療養や介護が必要になった場合の住まいについては、「在宅医療（訪問診療、訪問看護）や介護保険サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が37.3%で最も多く、次いで「特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの施設に入所したい」が25.6%、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」が19.3%。

